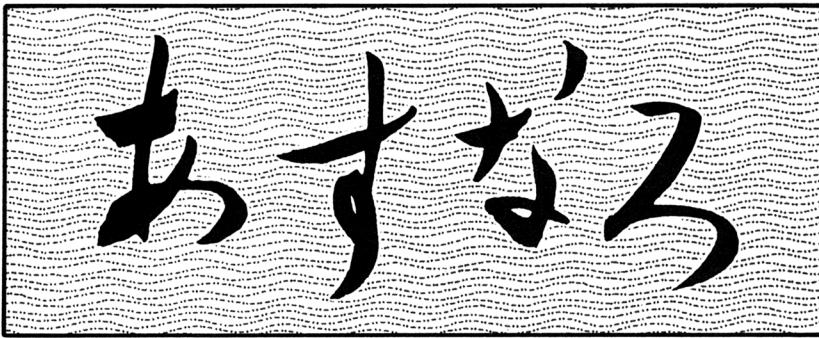


第 15 号

発行 弘前大学教育学部
同窓会
〒036 弘前市大字文京町 1
TEL. 0172 (36) 2111代表
編集事務局
弘前市大字豊原一丁目 3 の 3
弘前市立第三中学校内
TEL. 0172 (32) 2361



(教育学部附属農場から見た春の岩木山)

教育学部との

連携と活用を

同窓会長 木村 清之助

会員の皆様には日頃より本会の活動にご協力下さいまして、誠にありがとうございます。

さて教育学部が発足して半世紀になんなんとしています。公園内の学部校舎と文京町の校舎の間を、学生は殆ど徒歩で往復した昭和二十年代。現在は駐車場が学生の車で満杯。近代的な校舎が文京町に新築されたのはつい最近のような気がしますが、もう築後三十年になり、老朽化が目立ち、新校舎建築の話が始めています。時の流れの速さをいまさらながら感じます。

学生の出身地をみますと、全国にわたっており、国立とはいえ青森県の教育関係者としては複雑な思いがします。しかし、教員の採用率では全国の教員養成大学の三指に入っているとのこと、学部には敬意を表すると共に関係者として喜ばしい限りです。

さて今年度から始めた同窓会員の人材活用（特別講義）については、教育実習や教職を志すにあたっての心得、教育界の現状などの講義が学生から好評を得ております。今後とも継続していきたいと思っておりますのでご協力をお願いします。

新年度は、一昨年に完成した教育機器を中心とした教育実践研究指導センターに続いて、大学院の開設が実現することになりました。学部の歴史に大きな一ページとなる大学院が、センターと共に現職教育の場としても大いに活用されることを願うものです。

この三月で学部の第四回卒業生が定年を迎えることとなります。教育界をはじめ各分野でのご活躍ごころうさまでした。各支部におかれましては、現場を去られた方々との連絡も密にするようお願いいたします。



年頭に当たって

教育学部長 水野 裕

弘前大学教育学部同窓会会員の皆さん、新年おめでとございます。平成六年の元旦は全国的に晴れの穏やかな天気めぐまれて、皆さんにはさわやかな新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。

さて、昨年は国内では円高による不況、政権の交代、冷害、米の輸入問題など暗い落ち着かない出来事が続きました。また大学内では大学審議会の答申を受けて自己点検評価の実施、教養部廃止に伴う四年一貫教育のためのカリキュラム改正など動きの激しい年でした。

しかし、わが教育学部では長年の懸案であった大学院教育学研究科(修士課程)の平成六年度設置が内定したという明るい・うれしいニュースもありました。ただ、皆さん御承知のように国会審議が延びて、政府の予算案決定が越年したため正式決定が遅れています。

いずれにせよ、大学院設置が認められたことは、学部教職員の熱意が本部事務局や文部省にも伝わったわけで、これもひとえに同窓会はじめ多くの方々の御理解と御協力により実現したものと深く感謝しております。

なお、今回設置されたこの大学院修士課程には、現職教員に対して在学期間や入試科目について特例(優遇)措置が認められています。現職教員の同窓会員の皆さんにも、ぜひこの制度を利用していただきたいと思っております。

教育学部にはこれから弘前大学の改革の一環としての学部改組、大学院の全専修の完成、学部および附属学校の建物の新築など、まだまだ多くの課題が残っています。今後はこれらの実現に向けて、多くの方々の英智を結集して取り組み、教育学部の調和のとれた発展を図ることが大切と考えております。

同窓会からは大学院設置のほか、学生の就職対策などに関しても物心両面にわたり多大な御援助をいただき、心から深く感謝しております。今後共、何卒よろしくお願いいたします。

最後にになりましたが、同窓会の皆さん、これからのますますの御活躍を祈念して新年の挨拶といたします。

同窓会・県教委 定例懇談会

平成六年度 教員採用試験結果

同窓会の事業の一つである県教育委員会との定例教育懇親会が、平成五年十二月十五日(水)午後四時十五分から青森市新町の青森グラウンド・ホテルで行われた。猛吹雪による交通渋滞のため、弘前を一時三十分に出発したが四時をすぎずから会場に到着した。

県教育委員会から安田学務課長、久保総括主幹義務教育班長のお二人のご出席を願い、同窓会側からは木村会長及び水野裕名誉会長(教育学部長)それに、副会長、支部長、事務局二名の計六名が出席し、教員採用に関する情報交換や今後に望まれること等について話し合った。

木村会長の挨拶の後、自己紹介があり和やかな雰囲気の中で情報交換が行われた。安田学務課長からは、弘大教育学部卒業生の管理職の占める割合は年々増加している。さらに平成六年度教員採用試験は不況のため受験者数は昨年よりも二百三十一人増加したが、採用内定者は昨年の五百二十一人から四百六人と百五人減少した。その中の教育学部卒業生の内定者は昨年の百五十人から百六人と減少したが、各大学とも同じ傾向にあるのでむしろ良い方向に向かっていると考

えてよい、という説明があった。続いて、久保義務教育班長から採用試

験の結果等について説明があった。競争率は五・五倍で採用者は過去十年間で最低を記録し、応募者数は、最高を記録した。内定候補者数の男女の割合は男四九・二%、女五〇・八%ということであった。

	平成4	平成5	平成6
受験者全体	1,803	1,788	2,019
弘前大学	352(19.5%)	347(19.4%)	368(18.2%)
教育学部	254(14.1%)	271(15.2%)	274(13.6%)
内定候補者	624(34.6%)	521(29.1%)	406(20.1%)
弘前大学(弘大内合格)	192(54.5%)	173(49.9%)	135(36.7%)
教育学部(学部内合格)	160(63.0%)	150(55.4%)	106(38.7%)
教育学部内訳			
小学校	105	99	66
中学校	38	37	28
高等学校	4	3	5
養護教諭	13	11	7

採用者見込み数としてはゆるやかな減少、不況が続くと応募者がふえていくと思われる。今後に望まれる事項として、
1. 量から質への時代になってくる、点数と同時に人物重視となり、面接にもウエイトをおいて欲しい。
2. 求められる先生像としては、教職への極めて高い情熱がある先生、ボランティア活動や、サークル活動に関心がある先生、教育観をしっかりもっている先生等、大学当局に要望事項が出された。



新たななる国語科教室をめざして

国語・国文学科教室 小 倉 肇

同窓生の皆様、いかがお過ごしですか。私が赴任して、今年でちょうど二十年になります。この間に教育学部も国語科教室も大きく変わりました。教室教官の異動も少なからずありました。

国文学の小山内時雄・長田貞雄の両先生は昭和五十六・七年に相次いで定年退官され、後任に古典文学の鈴木正道先生、近代文学の長野隆先生を迎えました。鈴木先生は和歌文学、特に慈円の研究者として知られています。長野先生は、近・現代文学を幅広く研究し、中原中也研究など優れた業績を上げています。

国語科教育では、福村保先生が千葉大学に転任、林尚男先生が赴任されました。林先生は附属中学校長を務められ、昨年定年退官されました。後任は佐藤さむ先生です。佐藤先生は、附属中学校での長年の実践研究を生かし、国語科教育の講義で学生を魅了しています。

漢文学・国語科教育の江連隆先生は、附属養護学校長などを歴任、現在は教育実習委員長として活躍されています。

国語学（小倉）ゼミでは、津軽方言から「国語 C A I 研究」にテーマを変え、国語学習ソフトの作成を行っています。

ところで、「文叢」という研究発表誌、ご記憶にありませんか。十四年ぶりに

「復刊文叢」として再刊されました。卒業論文・卒業研究を中心に現在第三号を編集中です。今後は在学生と同窓生との橋渡しをするような役目をこの「文叢」が持つようになればと期待しております。研究成果・実践報告・近況などは是非お寄せください。

さて、国語科教室の教官は現在五名ですが、四月から七名になります。今年発足予定の大学院教育学研究科修士課程に国語教育専修が設置されるためです。国語学の渡邊修平先生、漢文学の山口爲廣先生を迎え、充実したスタッフで新たな国語科教室として学部・大学院での教育研究を行います。大学院で研究してみようと考えている同窓生もたくさんいらっしやることと思います。多くの現場の先生方を大学院に迎え、活力ある国語・国文学教室にしたいと思っておりますので、どうぞご協力をお願いいたします。

それでは、お元気で活躍ください。

各科教室だより

その1

社会科学科教室だより

社会科学科教室 加 来 浩

同窓生の皆様、いかがお過ごしですか。ちょうど十年前に現在のスタッフとなった社会科学科教室の八名の教官はみな変わらず元気に教育、研究、そして学内の運営に携わっております。

歴史科は日本史(中世社会史・思想・文化史)担当の齊藤利男教官、西洋史(ドイツ語圏現代史)担当の加来浩教官の下に六十名近くの学生が所属する大所帯となっています。各種コンパ、卒論発表会(二月)の他、恒例となった研究旅行(五月六月)など交流を深め、活気にあふれた研究室になっています。

ところで齊藤教官は昨年独身生活に別れを告げ、結婚されました。

地理科は人文地理(都市地理学)担当の後藤雄二教官、自然地理(地形学)担当の水野裕教官の下で教育・研究活動を行っています。地理的見聞を広め、交流を深めるための地理学巡検は、昨年は東京湾一周のコースで行われました。毎年正月初めに卒業生の発表も含めて卒論発表

表会が実施され、卒論は雑誌「弘大地理」(今年で第三〇号)として発行されています。

公民科は法律学(民法・法社会学・土地制度・地域開発論・雪害対策)の松原邦明教官、経済学(近世津軽南部地方の経済史・高度経済成長期の諸問題)の工藤睦男教官、哲学(ヨーロッパ近代哲学・現代思想の課題)の矢島忠夫教官の下で、「社会科学研究会」を組織し、毎年正月に合宿で卒論・研究発表会を行い、また「レ・シトワヤン」を発行するなど、知的で想像力にあふれた研究・教育活動を行っています。なお松原教官は昨年より附属図書館長をつとめておられます。

社会科学教育担当の村越潔教官は考古学の研究と教育のかたわら、青森県内での考古学的な発掘と調査を指導し、十三湊の史跡指定などで尽力されています。

さて、今年発足が予定されております大学院教育学研究科修士課程に、残念ながら教官定員が大幅に不足しておる社会科学専攻は含まれておりません。今後の見通しも非常に厳しいものがあります。しかし、同窓会の皆様のご支援もいただきながら、皆様のご期待に答えるべくつとめたいと思います。

大学院教育学研究科修士課程に、残念ながら教官定員が大幅に不足しておる社会科学専攻は含まれておりません。今後の見通しも非常に厳しいものがあります。しかし、同窓会の皆様のご支援もいただきながら、皆様のご期待に答えるべくつとめたいと思います。

大学院教育学研究科修士課程に、残念ながら教官定員が大幅に不足しておる社会科学専攻は含まれておりません。今後の見通しも非常に厳しいものがあります。しかし、同窓会の皆様のご支援もいただきながら、皆様のご期待に答えるべくつとめたいと思います。

数学科教室の昔と今

数学科教室 石井 純

卒業生の皆さんお元気ですか。

弘前大学は所謂新制大学として昭和二十四年に発足しました。当時、教育学部には塩谷・神田の両先生がおられて数学に関する教職科目を担当していました。数学の専門科目はセミナーなども含めて文理学部で両学部の学生を合併して担当していました。

私は三十七年に文理学部へ赴任してきましたので、当時の卒業生とも交流がありますが、教育学部の卒業生であっても、大抵の人は、教育学部数学科の卒業というよりは弘前大学数学科の卒業という意識がつよいように思われます。

その後、教育学部の数学科教官の定員が増えていったのにもなつて、真野・橋本の両先生と私が他学部から教育学部へつぎつぎに移ってきました。それにもなつて四十四年の卒業生から数学の必要な専門科目の全部を教育学部が単独で開講できるようになりました。

四十九年に定員増にもなつて、山形昌弘先生が採用になり専攻の幾何学などを主に担当しております。五十一年に真野先生の定年退官にもなつて、竹内勤先生が北海道大学から赴任しました。専門は環論で、代数学関係の科目を主に担当しています。五十三年に橋本先生の定

年退官にもなつて、東京理科大学から昆正博先生が赴任しました。専門の幾何学のみならず教科教育関係の仕事など幅広く活躍しています。大学内でも評議員などの要職を果たしています。

その後、四年前の神田先生の退官にもなつて、早稲田大学から伊藤成治先生が赴任しました。専攻は偏微分方程式論ですから、解析系の講義を主に担当しています。伊藤氏は三十歳の気鋭の研究者ですが、久しぶりに若い先生をお迎えしたところです。

さて、最近の在学生の諸君も学生生活をエンジョイしているようにみえます。雰囲気は以前の学生達とあまり変わりませんが、しかし、尚一層勉学に熱心であれば申し分がないのですが、

教職関係の就職は現在のところ、比較的には、良好な方についてよいように思っています。では、卒業生の皆さんも益々お元気で活躍ください。

(平成六年一月記)

各科教室だより

その2

「懐かしい先生」と「教室は今」

自然科学科教室 塩原 鉄 郎

卒業生に読んで頂く教室からの便りということですので、一人ひとりの卒業生に学生時代を思いだしてもらうことを考え、これまでに勤務された先生方の氏名を挙げて見ることにしました。

理科の学生に限らずいろいろご縁のあった卒業生の皆さんにも、この欄で思いだして頂きたいと思うのです。

学部も創立から四十年も経ち、ふり返って見ますと今はもう四代目が主力と言えるところです。(初代の先生にだけ故を付します失礼をお許しください)
生物には故和田千蔵先生、石川茂雄先生、塙先生、斉藤宗勝先生。

化学には、故菊池末太郎先生、佐藤圭先生、秋葉先生。

地学には、故酒井軍治郎先生、岩井武彦先生、宮城一男先生。

物理には、故成田一雄先生。理科教育には平田貞夫先生がおられました。どうぞコンタクトのあった先生のことや、赤れんがの校舎を思い出してください。

い。一人ずつのエピソードも紹介したいのですが、字数の関係で残念です。

現在は、物理、奥田・荒木先生、化学、星野・北原先生、生物は村上先生、地学、塩原と鎌田先生、理科教育は、生物系の斉藤・大高先生です。
六十才代二名、四十才代六名、三十才代一名からなります。

学生数は、一学科目あたりほぼ二十五名前後で物理が少し少ない。でも、教養部が廃部になり、一年生が学部で一年次から専門教科を聴きにくるうえに、今年からは中学校課程の二年生が二十人と増え、四月からは大変な賑わいになりそうです。

毎年、六月から九月の間に教室対抗の親善野球大会が行われています。生物は夏の臨海実習・高山植物実習、理科教育は、十二湖調査、地学は地質巡検(知床積丹、道南、山形、紀伊半島など)が活発に行われています。

理科の大学院は、残念ながら文部省の規定員では規定より三人足りず、先発できませんでした。これからです。教官の研究の外国往来も仲々盛んで、昨年だけでも九人中、六人が往復してほほどです。



平成五年度

定時総会報告

平成五年度弘前大学教育学部同窓会定時総会は、新緑の候である五月二十九日(土)午後二時より水野名誉会長・木村会長をはじめ、役員・各支部長・評議員を合わせ計二十七名の出席のもと、弘前市百石町大和家において開催された。

総会は高岡議長(弘前・中郡支部、前新和中)の当を得た処理により円滑に運び、議事は審議の後すべて承認され、実施にうつされることとなった。事務局からは特に四年度の大きな事業であった同

窓会名簿の作成(改訂)及び発行の状況について、また大学側からは平成六年度設置が予定されている大学院(修士課程)について、それぞれ詳しい報告・説明があった。名簿作成の方法については、特に今後検討が必要である。

続いて行われた懇親会では、各支部の活動の模様や情報交換が自然になされ、同窓会活動の在り方や今後の方向などについて和やかに語り合った。

庶務報告

- 4. 5. 30 平成 4 年度総会(教育実践研究指導センターにて)
- 4. 7. 29 同窓会費納入依頼(1)
- 4. 11. 5 臨時三役会議(県教育会館にて)
- 4. 11. 30 平成 4 年度県教委との定例懇親会
- 5. 1. 8 臨時評議会(県教育会館にて)
- 5. 1. 26 同窓会費納入依頼(2)
- 5. 2. 19 教育実習運営協議会
- 5. 3. 事務局打ち合せ
- 5. 3. 23 会報「あすなろ14号」発行
- 5. 3. 24 弘前大学 卒業式・祝賀会
- 5. 5. 10 平成 5 年度総会案内状発送
- 5. 5. 25 事務局打ち合せ

☆ 教育学部 厚生係・会計係との事務連絡は随時。

同窓会名簿会計報告

印刷冊数 3,000部 販売価格 1,700円

●収入の部	
特別会計基金より	2,000,000円
名簿の売上金	1,545,300円(1,700×909)
利息	889円
合 計	3,546,189円
●支出の部	
印刷費	3,161,070円
会議費	89,656円
通信費	14,198円
事務費	100,000円
合 計	3,364,924円

3,546,189-3,364,924円=181,265円(特別会計基金へ)

平成 4 年度収支決算報告書

(4. 4. 1-5. 5. 28)

○収入の部	4 年度予算	4 年度決算	備 考
終身会費	2,380,000	2,331,780	7,000×98-6,940×237
繰越金	76,826	76,826	
雑収入	10,000	1,000	利子
計	2,466,826	2,409,606	
○支出の部	4 年度予算	4 年度決算	
総会費	150,000	142,841	
評議会費	100,000	186,004	3 回分
支部活動費	300,000	300,000	30,000×10
会費徴収費	30,000	8,240	チラシ
通信費	40,000	67,076	督促状 封筒 切手 ハガキ
就職対策費	700,000	700,000	大学・県教委との懇親会
教生対策費	250,000	250,000	
大学院対策費	300,000	0	
祝儀	120,000	100,000	卒業パーティ
会報	210,000	160,000	あすなろ14号
基金	100,000	100,000	
事務費	100,000	100,000	大学事務謝礼
雑費	66,826	20,725	香典 ゴム印等
計	2,466,826	2,134,886	

2,409,606-2,134,886=274,720(次年度へ繰越し)

平成 5 年度予算書

(5. 4. 1-6. 3. 31)

○収入の部	4 年度決算	5 年度予算	備 考
終身会費	2,330,780	4,950,000	15,000×330
繰越金	274,720	274,720	
雑収入	1,000	5,000	利子
計	2,606,500	5,229,720	
○支出の部	4 年度決算	5 年度予算	
総会費	142,841	150,000	
評議会費	186,004	150,000	
支部活動費	300,000	500,000	50,000×10
会費徴収費	15,556	20,000	チラシ他
通信費	10,858	50,000	切手 はがき 督促状
就職対策費	700,000	700,000	
教生対策費	250,000	250,000	
大学院対策費	0	2,000,000	
特別指導費	0	200,000	会員による特別講義
祝儀	100,000	150,000	卒業パーティ
会報	160,000	200,000	あすなろ15号
印刷費	0	80,000	新会員名簿印刷費
基金	100,000	500,000	
事務費	100,000	200,000	大学・事務局
雑費	20,725	79,720	
計	2,134,886	5,229,720	

※特別会計基金

収入	青森銀行	12,297,832円
	みちのく銀行	6,017,755円
		18,315,587円
支出	青森銀行	12,297,832-4,500,000=7,797,832円
	弘前大学大学院補助	2,500,000円
	会員名簿補助	2,000,000円
現在の基金	青森銀行	7,797,832円
	みちのく銀行	6,017,755円

事業計画

1. 総 会
2. 県教委との懇談会
3. 会報「あすなろ15号」の発行
4. 弘前大学 卒業式・祝賀会
5. 教育実習反省会
6. その他

平成五年度役員

名誉会長

水野 裕
(弘前大学教育学部長)

顧問

齋藤 善三(弘前市)
太田 薫(弘前市)

会長

木村清之助(弘前市)

副会長

川原田満有(青森市)
中居 貞夫(八戸長者中)
竹内 照明(木造中)
杉山 芬(青森市)
工藤 睦男(弘前大学)

会計・監査

猪狩 清一(青森市)
塩原 鉄郎(弘前大学)

支部長

- 1. 弘前・中郡支部
野呂 恙二(弘前市)
- 2. 黒石・南郡支部
盛 皓(藤崎中)
- 3. 五所川原・北郡支部
藤田 信範(金木南中)
- 4. 西郡支部
千葉 良一(柏中)
- 5. 青森・東郡支部
嶋津宏一郎(青森南中)
- 6. 八戸・三戸郡支部
新山 徹(八戸下長小)

7. 三沢・十和田・上北郡支部

佐藤 久東(十和田中)
8. むつ・下北郡支部
高杉 正三(田名部中)

9. 弘前大学教育学部支部
山本 正(弘前大学)

10. その他の地区支部

評議員

1. 弘前・中郡支部

工藤 哲平(弘前市)
赤石 和夫(東小)
小野 禎亮(弘前市)
佐々木利直(弘前市教委)
今泉 徹三(弘前五中)
笹森 義男(弘前市教委)
高岡 實(弘前市)
鈴木 弘(弘前三中)
福島 一誠(相馬中)

2. 黒石・南郡支部

土岐 和正(六郷中)
佐藤 剛(大鰐中)
飯塚 洋(尾上中)
笠川 信明(碓ヶ関中)
高木 了司(上十川小)
川村 拓(田舎館小)
木村 光男(平賀東小)
北畠 昭智(浪岡北小)

3. 五所川原・北郡支部

浅見 則明(采小)
佐藤 常義(菖蒲川小)

北沢アキ子(鶴ヶ岡小)

山内 隆(牛潟小)
神 修治(鶴田町)

小笠原俊亮(鶴田中)
齋藤 守(木造中)

4. 西郡支部

福士 光俊(大沢内小)
三上健之助(柏小)

小林 弘明(鯉ヶ沢二中)

三浦 昭(岩崎南中)
種田 清志(西北教育)

村上靖一郎(車力小)
小野 肇(小泊中)

藤田 讓(森田中)
高橋 秀一(館岡中)

5. 青森・東郡支部

沼沢 武志(堤小)

小松 詰(今別小)
大坂 浩昭(沖館中)

秋元 毅一(青森市)
山口 茂樹(青森市)

石戸 励(青森市)
高橋 裕(青森市)

6. 八戸・三戸郡支部

中川原兵威(八戸小)
沼畑 清(三戸小)

岩見 秋夫(八戸西高)
坂本 哲造(下長中)

佐々木英治(八戸市教委)
横田 良雄(五戸中)

7. 三沢・十和田・上北郡支部

内海 正俊(八戸工高)
立崎 庸夫(三沢高)

中岫 豊(天間館中)
山田 誠司(三沢市教委)

西村 透(藤坂小)
菊池 良久(七戸小)

真石 徹(下田小)

8. むつ・下北郡支部

永谷 智(苦生小)
松田 里司(川内中)

尾本 公英(畑中)
土岐 勝(宿野部小)

村川 睦子(むつ中)
高橋 昭一(脇野沢中)

須藤 昭栄(むつ市)

9. 大学教育学部支部

工藤 哲一(附属小)
清藤 紀子(附属中)

赤田 晴美(附属幼)
葛西ゆう子(附属養護)

丹藤 進(教育)

常任委員

工藤 光男(石川中)
相馬 正栄(弘前三中)

伊藤 学(附属中)
葛西 一誠(弘前三中)

